

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	豊田自動織機 シャインズ三河湾	階数	地下1階地上4F
建設地	愛知県西尾市鳥羽町八貫45-1	構造	RC造
用途地域	用途地域なし、22条区域	平均居住人員	48人
気候区分	6地域	年間使用時間	5,000時間/年
建物用途	ホテル	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年2月 予定	評価の実施日	2017年4月27日
敷地面積	4,667 m <sup>2</sup>	作成者	池田
建築面積	783 m <sup>2</sup>	確認日	2017年4月27日
延床面積	2,521 m <sup>2</sup>	確認者	小西



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 3.0** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

3.0 1.5 BEE=1.0

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

0 46 92 138 184 (kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 4.3**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 4.0

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.9

#### Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 5.0

**LR のスコア = 3.9**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.9

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.9

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.8

### 3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">4.0</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">5.0</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">4.0</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">5.0</p>

外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)

53.0 %

建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)

0.0 %

<外装材に使用した地域性のある材料>

県産石材

<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>

県産木質内装材

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮  
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用  
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性  
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化  
Q-3 1 生物環境の保全と創出

④地域材の活用  
Q-3 2 まちなみ・景観の配慮 4) 地域性のある素材による良好な景観形成

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積} + \text{附属物面積}}$  × 100

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}}$  × 100

みんなの環境活動を応援しています

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み 係数	評価点	重み 係数		
<b>Q 建築物の環境品質</b>								
<b>Q1 室内環境</b>								
<b>1 音環境</b>								
<b>1.1 騒音</b>								
<b>1.2 遮音</b>								
1 開口部遮音性能								
2 界壁遮音性能								
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)								
4 界床遮音性能(重量衝撃源)								
<b>1.3 吸音</b>								
<b>2 温熱環境</b>								
<b>2.1 室温制御</b>								
1 室温								
2 外皮性能								
3 ゾーン別制御性								
<b>2.2 湿度制御</b>								
<b>2.3 空調方式</b>								
<b>3 光・視環境</b>								
<b>3.1 昼光利用</b>								
1 昼光率								
2 方位別開口								
3 昼光利用設備								
<b>3.2 グレア対策</b>								
1 昼光制御								
<b>3.3 照度</b>								
<b>3.4 照明制御</b>								
<b>4 空気質環境</b>								
<b>4.1 発生源対策</b>								
1 化学汚染物質								
<b>4.2 換気</b>								
1 換気量								
2 自然換気性能								
3 取り入れ外気への配慮								
<b>4.3 運用管理</b>								
1 CO <sub>2</sub> の監視								
2 喫煙の制御								
<b>Q2 サービス性能</b>								
<b>1 機能性</b>								
<b>1.1 機能性・使いやすさ</b>								
1 広さ・収納性								
2 高度情報通信設備対応								
3 バリアフリー計画								
<b>1.2 心理性・快適性</b>								
1 広さ感・景観								
2 リフレッシュスペース								
3 内装計画								
<b>1.3 維持管理</b>								
1 維持管理に配慮した設計								
2 維持管理用機能の確保								
<b>2 耐用性・信頼性</b>								
<b>2.1 耐震・免震</b>								
1 耐震性								
2 免震・制振性能								
<b>2.2 部品・部材の耐用年数</b>								
1 躯体材料の耐用年数								
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔								
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔								
4 空調換気ダクトの更新必要間隔								
5 空調・給排水配管の更新必要間隔								
6 主要設備機器の更新必要間隔								
<b>2.4 信頼性</b>								
1 空調・換気設備								
2 給排水・衛生設備								
3 電気設備								
4 機械・配管支持方法								
5 通信・情報設備								
<b>3 対応性・更新性</b>								
<b>3.1 空間のゆとり</b>								
1 階高のゆとり								
2 空間の形状・自由さ								
<b>3.2 荷重のゆとり</b>								
<b>3.3 設備の更新性</b>								
1 空調配管の更新性								
2 給排水管の更新性								
3 電気配線の更新性								
4 通信配線の更新性								
5 設備機器の更新性								
6 バックアップスペースの確保								

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体	
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み 係数	評価点	重み 係数		
		<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>						-	0.30
1 生物環境の保全と創出	独自③	周辺環境に配慮した植栽の採用、低騒音機器による野生生物へ		5.0	0.30	-	-	5.0	
2 まちなみ・景観への配慮	独自④	地域環境の溶け込んだ外構計画		5.0	0.40	-	-	5.0	
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>				5.0	0.30	-	-	5.0	
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	独自④	地域の風景を乱さない外観		5.0	0.50	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		緑地を敷地を設けている		5.0	0.50	-	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>				-	-	-	-	3.9	
<b>LR1 エネルギー</b>				-	0.40	-	-	3.9	
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI <sub>m</sub> =0.91		3.0	0.30	-	-	3.0	
2 自然エネルギー利用		太陽光発電設備あり		5.0	0.20	-	-	5.0	
<b>3 設備システムの高効率化</b>				4.0	0.30	-	-	4.0	
集合住宅以外の評価(3a,3b)		高効率タイプの設備を中心に採用		4.0	1.00	-	-	-	
集合住宅の評価(3c)				-	-	-	-	-	
<b>4 効率的運用</b>				4.0	0.20	-	-	4.0	
集合住宅以外の評価				4.0	1.00	-	-	-	
4.1 モニタリング		エネルギー消費量を中央監視設備に取り込み		4.0	0.50	-	-	-	
4.2 運用管理体制		エネルギー消費量を目標値を設定し、定期的にフォローアップ		4.0	0.50	-	-	-	
集合住宅の評価				-	-	-	-	-	
4.1 モニタリング				-	-	-	-	-	
4.2 運用管理体制				-	-	-	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>				-	0.30	-	-	3.9	
<b>1 水資源保護</b>				3.4	0.15	-	-	3.4	
1.1 節水		節水型器具の採用		4.0	0.40	-	-	-	
<b>1.2 雨水利用・雑排水等の利用</b>				3.0	0.60	-	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67	-	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33	-	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>				4.3	0.63	-	-	4.3	
2.1 材料使用量の削減		PCaコンクリート部材、鉄骨部分にBCR材、トラス筋付きデッキの		4.0	0.07	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.24	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		電炉材、プレキャストコンクリート部材		5.0	0.20	-	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	② 独自	ビニル床材・パーテイルボード床下地材・間伐材ルーバー		5.0	0.20	-	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	0.05	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	独自	解体時に容易にr分別ができる計画		5.0	0.24	-	-	-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>				3.3	0.22	-	-	3.3	
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.32	-	-	-	
<b>3.2 フロン・ハロンの回避</b>				3.5	0.68	-	-	-	
1 消火剤				-	-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)				3.0	0.50	-	-	-	
3 冷媒		環境に優しい冷媒を使用		4.0	0.50	-	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>				-	0.30	-	-	3.8	
<b>1 地球温暖化への配慮</b>				①	ライフサイクルCO2概算値:74%	4.0	0.33	-	4.0
<b>2 地域環境への配慮</b>				4.0	0.33	-	-	4.0	
2.1 大気汚染防止		大気汚染物質を極力排出しない設備計画		4.0	0.25	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善		温熱環境が改善するように対策を講じている		4.0	0.50	-	-	-	
<b>2.3 地域インフラへの負荷抑制</b>				4.2	0.25	-	-	-	
1 雨水排水負荷低減	独自	適正な雨水処理設備を計画		4.0	0.25	-	-	-	
2 汚水処理負荷抑制	独自	浴槽排水一時貯留		4.0	0.25	-	-	-	
3 交通負荷抑制		車が滞らない駐車場計画		5.0	0.25	-	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制		充分なゴミ置き場を確保、有価物の計画的回収		4.0	0.25	-	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>				3.6	0.33	-	-	3.6	
<b>3.1 騒音・振動・悪臭の防止</b>				3.6	0.40	-	-	-	
1 騒音	独自			3.0	0.33	-	-	-	
2 振動	独自	設備機器の振動対策を講じている		5.0	0.33	-	-	-	
3 悪臭				3.0	0.33	-	-	-	
<b>3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制</b>				3.0	0.40	-	-	-	
1 風害の抑制				3.0	0.70	-	-	-	
2 砂塵の抑制				-	-	-	-	-	
3 日照障害の抑制				3.0	0.30	-	-	-	
<b>3.3 光害の抑制</b>				4.7	0.20	-	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のつら外に漏れる光への対策		グレアが起こりにくい照明器具の採用		5.0	0.70	-	-	-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策		外壁にルーバーや庇を設置		4.0	0.30	-	-	-	

**重点項目スコアシート**

豊田自動織機 シャインズ三河湾

実施設計段階

■ 使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2014年版+あいち版手引き

■ 評価ソフト:

CASBEE-BD\_NC\_2014(v.2.0)\_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア	
<b>① 地球温暖化対策</b>				<b>4.0</b>	
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.0	0.10		
<b>② 資源の有効活用</b>					<b>4.0</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	3.3	0.09		
Q2-3	対応性・更新性	4.4	0.09		
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	4.3	0.19		
<b>③ 敷地内の緑化</b>				<b>5.0</b>	
Q3-1	生物環境の保全と創出	5.0	0.09	外構緑化:53%/建物緑化:0%	
<b>④ 地域材の活用</b>			(評価ポイント)	<b>5.0</b>	
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	2.0	-	県産石材	
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	2.0	-	県産木質内装材	

■ 重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

計画上の配慮事項	
総合	注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。 環境に優しく地域環境に溶け込む建物
Q1 室内環境	注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 滞在者が快適に過ごせるように、広く安心感のある空間の創出と高効率な設備を取り入れた室内環境計画とする
Q2 サービス性能	注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 メンテナンス性を考慮して点検口などを多数設置し、設備スペースも搬出入動線を考慮したものとなり更新時に備えて建築計画と設備計画を調和させている
Q3 室外環境(敷地内)	注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 敷地内に緑地帯を多数設けて温熱環境の改善、周辺地域との調和を図っている 夜間運転モード機器の採用により、緑地内に生息する野生生物の生活環境への影響を抑制
LR1 エネルギー	注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 省エネ設備を多く取り入れ、太陽光発電設備などの自然エネルギーを利用した設備も設けうることによって省CO2を実現
LR2 資源・マテリアル	注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 躯体材料に電炉材および、PCaコンクリート部材を適用し、リサイクル資材を適用したPCaコンクリート部材の適用および鉄骨部分にBCR材を適用、トラス筋付きデッキの適用により使用材料および仮設材料を削減した。
LR3 敷地外環境	注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 振動・騒音対策、適切な雨水排水設備を設けるなど周辺地域に悪影響を及ぼさないよう対策を講じている
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。 工事に関わる産業廃棄物を削減する取組みを実施 工事排水の抑制